

2012年3月25日

学会認定・臨床輸血看護師制度

協議会 会長 大戸 斉  
審議会 会長 田崎哲典  
試験委員長 梶原道子

(1) 筆記試験

1. 実施日時、会場：平成24年10月28日（日）、東京医科歯科大学
2. 時間、内容：2時間、多肢選択式問題30題（60点）、記述式問題7題（40点）
3. 受験者数：163名（受験候補者168名中、資格審査不合格1名、受験辞退者4名を除く）
4. 成績：平均点79.37点、最高点97点、最低点55点、標準偏差9.37点
5. 筆記試験合格者数：160名（得点60点以上）

(2) 病院研修

1. 期間、会場：平成25年1月8日～3月1日  
学会認定・臨床輸血看護士制度協議会の認定施設
2. 研修者数：159名  
（研修対象者は、筆記試験合格者160名と、昨年度の施設研修未了者2名の計162名であったが、3名が施設研修を辞退した）
3. 研修終了者数：159名  
（施設研修を受けた159名において、不合格と判定された者はなかった）

(3) 最終認定者数、認定率：159名、93.5%（受験申請者170名に対する割合）

(4) 講評

東京医科歯科大学を会場として、平成24年10月27日（土）に講習会が、28日（日）に筆記試験が行われた。今回の申請者総数は170名で、新規申請が167名、再申請が3名（うち2名は筆記試験合格済みで、病院研修が未了）であった。即ち、講習会の受講予定者は168名であったが、資格審査不合格1名、受験辞退4名で、実際の講習会受講者数は163名となった。講習会は13時よりスタートし、6名の講師により途中で約10分の休憩を挟み、19時まで行われたが、何れの看護師も熱心に聴講されていた。

筆記試験は翌日に行われ、講習会参加者163名全員が受験された。結果は上記の如くで、得点の調整なく、60点以上の160名を合格と判定した。

病院研修の対象者は今回の筆記試験の合格者160名と、既に筆記試験が合格で病院研修未了の2名の、計162名の予定であったが、3名が辞退され、159名が全国48の指定施設で研修を行った。評価は①輸血の意義と目的、②血液製剤の取り扱い、③輸血看護、④輸血副作用、⑤輸血検査、⑥血液製剤の準備・払い出し・管理、⑦症例検討の計7項目について、それぞれ(a)特に優れている、(b)優れている、(c)良い、(d)劣る、の4段階で評価された。総合評価では159名中、44名(28%)が(a)と判定され、104名(65%)が(b)、11名(7%)が(c)と判定されたが、(d)の判定は皆無であった。項目別では、これまでと同様、③輸血看護において(a)と判定された者が39%で最も多く、(b)判定まで含めると、96%は優れていると判定された。しかし、⑤輸血検査では、(a)判定が16%のみで、19%は(c)と判定され、輸血検査に関する知識不足を指摘した評価者が多かった。何れにしても総合で(d)と判定された受験者はなく、159名の病院研修の修了が確認された。

以上より第3回は、最終的に159名を学会認定・臨床輸血看護師と認定し、全過程を終了した。まだ、認定者がゼロの県もあるが、第1回の133名、第2回の153名と合わせ、現在、計445名の学会認定・臨床輸血看護師が全国の病院で輸血医療・看護に携わっていることになる。第61回日本輸血・細胞治療学会総会（横浜）では、シンポジウムで資格取得者の活発な活動が紹介され、わが国の輸血医療の安全性は更に高まることは間違いないと確信した次第である。